

参 考 資 料

- 町が実施したアンケート調査の状況
- 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律

本町では、町内に在住・在勤の方を対象に「配偶者からの暴力の防止及び保護のためのアンケート調査」を行ないました。（調査は平成20年度実施）

[アンケート1 暴力に対する意識について]

行為の種類 回答数 女：171 男：149	性別	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
平手でぶつ、足でける	女	135	27	2	7
	男	120	27	0	2
物を投げつける	女	134	27	1	9
	男	116	26	4	3
なぐるふりをしておどす	女	108	51	5	7
	男	78	39	11	21
ドアを蹴ったり、壁の物を投げおどす	女	134	29	1	7
	男	88	27	6	28
突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	女	160	3	1	7
	男	138	7	1	3
刃物などを突きつけておどす	女	165	0	0	6
	男	141	4	0	4
打ち身や切り傷などのケガをさせる	女	162	3	0	6
	男	137	5	0	7
身体を傷つける可能性のあるものでなぐる	女	164	0	0	7
	男	141	3	0	5
骨折させる	女	163	2	0	6
	男	140	5	0	4
嫌がるのに性的な行為を共用する	女	140	24	1	6
	男	127	16	2	4
何を言っても、長時間無視続ける	女	95	57	11	8
	男	76	58	9	6
交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する	女	94	61	9	7
	男	65	64	16	4
「誰のおかげで生活できるのか」などという	女	107	51	7	6
	男	79	57	10	3

大声でどなる	女	98	63	5	5
	男	71	70	5	3

■結果から見えてくるものに、男女とも《暴力》の概念を狭く捕らえていることが伺えます。

★「突き飛ばしたり、床にたたきつけたりする」「刃物でおどす」「ケガをさせる」「骨折させる」などは男女とも大多数の人が「どんな場合でも暴力である」と答えています。

★「平手でぶつ」「物を投げる」「なぐるふりをしておどす」「ドアを蹴るなどでおどす」については、男女とも「暴力の場合とそうでない場合がある」の回答が増え、「暴力にあたるとは思わない」との回答は、男性が女性を大きく引き離しています。

★「長時間無視」「交友関係等を細かく監視」「大声でどなる」などは、男女とも暴力であるとの概念が薄く、男性においては「暴力でない場合がある」「暴力にあたるとは思わない」という意見が「どんな場合でも暴力にあたる」に拮抗し、若しくはそれを上回るデータが浮かび上がってきます。

★ 以上のことから《身体的暴力》を暴力と捕らえがちなのが分かってきます。《見えない暴力》は身体には傷つきませんが、怒鳴られたことで身体が萎縮したり、物音にも敏感になり、精神的に不安定になり、間接的に精神を蝕んでいき、場合によっては身体的暴力より深刻な状況になることなど、住民1人ひとりがはっきりと《暴力》であると認識することが必要です。

[アンケート2 配偶者やパートナーからの行為について]

行為の種類	回答数	女：171 男：149	性別	何度もあった	1.2度あった	まったくない	無回答
命の危険を感じるくらいの暴行を受けた	女	1	5	159	6		
	男	0	4	139	6		
医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた	女	1	3	161	6		
	男	0	2	141	6		
医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた	女	5	6	154	6		
	男	1	2	140	6		
嫌がっているのに性的な行為を強要された	女	6	22	136	7		
	男	0	1	141	7		
何を言っても無視され続ける	女	2	14	146	9		
	男	5	27	114	3		
交友関係や電話、郵便物を細かく監視される	女	2	11	152	6		
	男	1	4	136	8		
「誰のおかげで生活できるんだ」と言われた	女	3	14	148	6		
	男	0	5	138	6		

大声でどなられた	女	13	42	112	4
	男	5	30	108	6

★女性の12%、男性の6%が1、2回以上のさまざまな暴行を受けたことがあると答えています。

★「何を言っても無視され続ける」は男性21%、女性9%で、この項目では男性が多いが、「交友関係や郵便物の監視」「大声でどなられた」などの項目は圧倒的に女性が多く、「見えない暴力」による精神的ストレスを受けていることが見受けられます。

【アンケート3 配偶者からその行為を受けた理由について】

理由	回答数 女：80 男：56		性別	人数
	女	男		
相手の言うとおりにしなかったから	女		女	14
	男		男	8
相手がイライラしていたから	女		女	23
	男		男	16
相手が酒に酔っていたから	女		女	10
	男		男	2
私の行動や言動に問題があったから	女		女	24
	男		男	25
その他	女		女	9
	男		男	5

★女性は、「相手がイライラしていたから」と「自分の行動や言動に問題があったから」が多い。

★男性は、「自分の行動や言動に問題があったから」が最も多く、自覚していることが伺えます。

ここで、「自分の行動や言動に問題があった」結果、男女で大きく違ってくるのは、男性の場合は、パートナーから「何を言っても無視され続ける」行為があるのに対し、女性の場合は、パートナーから「暴力」で脅される行為や「大声でどなられる」行為を受けることとなるので、一言で「暴力」を「受ける」と言っても、受ける女性側のダメージは大きい。

【アンケート4 その行為を受けた時、お子さんは目撃していましたか】

子どもについて	回答数 女：57 男：40		性別	人数
	女	男		
目撃していた	女		女	19
	男		男	12

目撃していない	女	29
	男	17
わからない	女	9
	男	11

[アンケート5 相手はあなたがされたのと同じ行為を、子どもにもしたことがありますか]

行 為	回答数 女：53 男：45	性 別	人 数
したことがあった		女	7
		男	8
なかった		女	40
		男	31
わからない		女	6
		男	6

■DVの行為には、多くの場合児童虐待につながることもあり、この設問を設けました。

★DV行為が子どもに及んだケースは、この調査では女性が被害者の場合13.2%、男性が被害者の場合17.8%です。

★しかし、児童虐待は子どもが直接暴力を受けなくても、母親なり父親が暴力を受けている場面に出くわすだけで、強いストレスとなり、心身に多大に影響を及ぼし、これも「児童虐待」に該当します。

アンケート4で女性被害者の33.3%、男性被害者の30%が、DV行為の現場を子どもが目撃していたと答えており、子どもへの影響も懸念されます。

[アンケート6 あなたは受けた行為を誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか]

対 応	回答数 女：51 男：43	性 別	人 数
相談した		女	19
		男	5
相談したかったが、相談しなかった		女	6
		男	2
相談しようと思わなかった		女	29
		男	38

[アンケート7 <アンケート6で相談したと答えた方に>

あなたは受けた行為を誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか]

相 談	複数回答	性 別	人 数
家族		女	9
		男	1
知人・友人		女	11
		男	4
警察		女	0
		男	1
弁護士		女	1
		男	1
医師・カウンセラー		女	1
		男	0
人権擁護委員・役所・民間など公的機関		女	1
		男	0
その他（しゃべって発散など）		女	3
		男	0

★「相談した」は女性が圧倒的に多く、家族や友人・知人など身近にいる相手に相談している。

★一方、男性は主に友人に相談していると回答している。

[アンケート8 <アンケート6で相談しなかった、相談しようとも思わなかったと答えた方に>

あなたが相談しなかったのはどうしてですか]

理 由	複数回答	性 別	人 数
誰（どこ）に相談していいかわからなかった		女	0
		男	0
恥ずかしくて誰にも言えなかったから		女	1
		男	2
相談しても無駄だと思ったから		女	2
		男	7
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから		女	1
		男	0

自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	女	6
	男	3
世間体が悪いから	女	2
	男	2
そのことについて思い出したくないから	女	0
	男	1
自分にも悪いところがあると思ったから	女	7
	男	12
相談するほどの事ではないと思ったから	女	20
	男	25
その他（心配かけたくなかったから）	女	2
	男	3

■DV相談を考える上で、被害者がどのような考えを持ち、心理的行動をとるかの設問です。

★DVの内容は身体的暴力から無視まで多岐にわたるものの、「自分にも悪いところがあると思った」「相談するほどの事ではないと思った」という考えの方が、女性・男性とも約65%となり、「自分さえ我慢すればやっていける」を加えるとさらに該当者が多くなり、3人に2人は相談を躊躇するデータが浮かび上がり、このことからDVの発見が遅れる様子が伺えます。

★「相談しても無駄だと思ったから」が男性で多く、始めから相談をあきらめていることが伺えます。